意見：金子昌生（愛知県がんセンター）　心臓の各房室の分離に斜位で撮影されたら如何でしょう．

17. 金コロイド ^{198}Au による胸骨傍リンフォグラフィー

桜井邦輝　金子昌生　佐々木常雄　木戸長一郎
佐藤信泰　伊藤廉爾　日比野清康＜放射線科＞
三浦重人＜外科＞
（愛知県がんセンター）

金コロイド ^{198}Au による胸骨傍リンフォグラフィーを種々の方法で例に施行し比較した．注射部位は胸骨剣状突起両側で，50μCi ずつ合計100μCi 使用した．胸骨傍リンパ節群が一側でもはっきり見えた例を成功，両側ともはっきりしなかった例を失敗とみなした．注射針に関しては，26G$^1/_2$ 針を使用した例では成功率87％（103例中90例），その他の針を使用した例では成功率79％であった．26G$^1/_2$ 針は元まで，すなわち12mm の深さに刺して使用した．金コロイドとの混合剤としては，ベノプラント使用群は19例中19例に成功，スプラーゼ使用群は55例中50例に成功，金コロイドのみ注射した群では43例中32例に成功した．正面シンチグラフィー30,000Cに要する時間は，ベノプラント使用群13例では平均853秒，スプラーゼ使用群32例では平均1,159秒，金コロイド単独使用群1,188秒であった．以上は平均直径25mμ 金コロイド使用の場合であるが，5mμ 金コロイド使用群4例では平均437秒であった．

質問：松田忠義（国立名古屋病院）　このリンフォグラフィーの病的所見の読影の基準をどういうところにおきますか．

回答：桜井邦雄（愛知県がんセンター）　胸骨傍リンフォ・グラフィの異常所見は転移リンパ節群がシンチグラム上見られないか，非常に位置，形状が乱れるという形で現われるが，リンパ流に影響を及ぼさない程度の転移では異常所見を呈しない．

質問：今枝孟義（岐阜大学　放射線科）　5mμ の金コロイドを使用した場合，20～30mμ に比して速くリンパ流にのる理由は，size の大きさだけによると思われますか．

回答：桜井邦輝（愛知県がんセンター）　50Åの金コロイドを使用して正面シンチグラフィー時間が半減したのは混合薬剤によるとは考えられない．混合薬剤としては，ベノプラントを使った例もスプラーゼを使った例もある．

18. 米国核医学会に出席して

斎藤　宏
（名古屋大学　放射線科）

昨年7月 Washington, D.C において米国核医学会がひらかれた．学会会長は Taplin で，日本のようにその土地の人が会長というわけではない．学会の内容はきわめて広範囲に及んでいて，出席者も医師，技師，薬学，工学など各種類である．しかし医学会としての特徴はやはりはっきりしている．本学会では内科，臨床病理および放射線科の Bood 支援の下で Bood of Nuclear Medicine の出発，世界核医学会の発足が大きなニュースであった．また Nuclear Pioneel-Lecture での Dr. Ross の話は Dr. Lawrence につきその業績をたたえるすばらしいものであった．医薬品の発展はあまりみられなかった．β 線カメラの展示はペーパークロマトクオートグラフを無用にする有用な装置であると思う．

次回は Dr. Wagner が会長で Los Angeles でひらかれる．

19. 肝スキャンにて巨大な欠損像を呈した3例

井戸豊彦　若園昌稔＜内科＞
原　節雄　松浦昭吉＜外科＞
（岐阜日赤病院）

肝癌と診断した巨大な肝の欠損像を呈した三例を経験したので報告する．

第一例：71歳　男　悪寒戦慄と高熱および肝腫大を来たして入院した．肝シンチにて単発性の肝右葉の巨大な欠と損左葉の代償性肥大を認めた．肝膿瘍と診断し抗生物質を投与したが死亡した．死後肝切片の病理診断は胆管癌であった．

第二例：53歳　男，右季肋部の鈍痛と肝腫大にて入院肝シンチにて右葉の単発性巨大欠損と左葉の代償性腫大を認めた．肝癌と診断した．一カ月後にはますます増大して死亡した．

第三例：54歳　女，排便障害と衰弱にて来院．諸種の検査により結腸癌さらに肝シンチにて3～4個の球形欠損を認め肝転移と診断した．人工肛門形成術を施行したが5カ月後死亡した．

以上肝シンチグラムが肝癌診断上有力な指標となった三症例を報告した．

Presented by Medical*Online